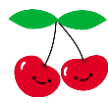




# さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ  
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 1 令和2年6月19日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL: <http://www.ymg-kg.yamaguchi-u.ac.jp>

園庭に「さくらんぼ」の木があります。春に実をつけ、次の進級前には花を咲かせる園庭の「さくらんぼ」にちなんで、園での楽しい生活とそこでの子どもの育ちを伝える通信「さくらんぼ」をお届けします。

今回は再開した幼稚園生活をどのように過ごしてきたか、それぞれの年齢の姿とともに、保育者の思いや願いをお伝えしようと思います。

## 楽しい遊びを見つけたよ！（花組）

約一か月半の休園期間が明け、子どもたちはどのような表情で登園してくるかな？どんな遊びが好きかな？とドキドキして園の再開を迎えました。想像以上に、子どもたちは緊張や不安の表情は少なく、遊べるのが楽しみ！というような柔らかな表情で登園していました。例年より半数登園が少ないにもかかわらず、園生活にも馴染むことができ、自分のやりたいことを見つけて楽しむ姿がどんどん増えてきたことに私たちも安心しました。今ではみんなで帰りの集まりのひと時を楽しみ、一緒に手遊びをしたりお話を聞いたりして過ごせるようになりました。一生懸命に保育者の話を聞こうとする姿を見ると、すっかり幼稚園の花組さんになったなあ嬉しく思います。

6月に入り、じめじめと蒸し暑い日が続いています。子どもたちも水に触れることが気持ちよく、水を使った遊びを楽しむようになりました。始めの頃は、ちょろちょろと池の中を流れる水に触れていた子どもたちも、次第にダイナミックにのびのびと水遊びを楽しむようになりました。大きなポリ袋に寝転んで「ぶにぶにだ〜！」と気持ちよさそうに感触を楽しむTくん。「恐竜がいるよ！」と的にめがけて水をかけて遊ぶSくん。池に梅の実や葉っぱを何回も流して様子を見ているYちゃん。どの子どもたちもそれぞれにやってみたいことや楽しいことを見つけて、いい表情で遊びに向かっています。つい、水遊びが楽しくなりすぎて周りの友達に水をかけてしまうこともあります。相手の悲しそうな怒ったような表情を見て、初めてハッと気づく姿が…。子どもたちにとっては25人という大きな集団の中での生活は初めてであり、友達という存在や相手にも気持ちがあるということに出会う毎日なのだと思います。友達と一緒にいて楽しい存在になってくることもあれば、思いがぶつかり悲しい気持ちになってしまうこともあります。それぞれの思いを受け止めながら、お互いの気持ちを知らせることを



繰り返して、少しずつ友達の思いに気づいていけるようになってほしいと思います。



幼稚園で初めてツマグロヒョウモンに触ったり、廃材を貼り合わせてロボットやネコをつくったり、友達にブランコを押してもらったり…。日々の生活の中でたくさんの“初めて”や“楽しい”に出会っています。「まだ遊びたかった！」という声が聞こえてきたことも、幼稚園の遊びが楽しくなってきたんだと成長の一つとして私たちも嬉しく思っています。これから一年間の成長が楽しみな花組さんの始まりです。

（高橋）

## 楽しそう！一緒に遊ぼう（風組）

何をするにも全力投球の年中さん。元気いっぱいの風組さんと一緒に時間を過ごせることが何より嬉しい毎日です。

ある日のお弁当後、KちゃんとHちゃんがグローブジャングルで遊んでいると、RくんとSちゃんとAちゃんもやって来ました。グローブジャングルに乗った子どもたちに、保育者が「みなさん、準備はいいですか？」と聞くと、「いいですよ。」と子どもたち。すると、Rくんが「恐竜島に行こう。」と言いました。Rくんの一言で、グローブジャングルは恐竜島探検へ向かう車に早変わり。「準備はいいですか？」と保育者が聞くと、「オッケー。」とSちゃん。保育者の「出発！」の声に、Hちゃんも「出発！」と言い、車は動き出しました。

保育者が、「そろそろ恐竜島が見えてきた？」と聞くと「いいや、まだ。」とRくん。そのまま、車を走らせると、Rくんが「あー！恐竜島発見！探検に行こう。」と車から降りて来ました。Rくんにみんなも続きます。大庭の築山の上が恐竜島。探検が始まってすぐ、Rくんが「戻ろう。」と叫びました。保育者が「怒った恐竜がみんなを食べに来た。」と言うと、みんなは一斉に車をめがけて走りだしました。車に戻ったRくんとAちゃんは、逃げ遅れたSちゃんを見つけて「頑張れ！」「走って！」と叫びました。無事、Sちゃんも車に戻ってくると、「次はうさぎ島に行こう。」とHちゃん。保育者が「それでは、次はうさぎ島に出発。」と言うと、「出発！」とみんなの声がそろいます。車が動き出し、「そろそろ、うさぎ島が見えますか？」と保育者が聞くと、「見えるけど、まだ小さい。」とRくん。少しして、保育者が「着いた？」と聞くと「うさぎ島に着いたよ。」とHちゃん。Rくんが「行くぞ！」と言い、車を降りました。みんなもRくんに続きます。うさぎ島に到着し、探検していると「車に戻ろう！」とRくん。みんなは走って車に戻りません。保育者が「全員戻った？」と聞くと、「次はさ、そう島に行こう。」とAちゃんが言い、そう島に行くことになりました。その後も、いろいろな島を目指し、探検しては走って車に戻るといった大冒険を、何度も繰り返しました。

進級児は、風組1と2に分かれましたが、クラスに関係なく、好きなことが同じ友達と一緒に集まって遊んでいます。新入児も交えて好きな遊びを楽しむ中で、一緒に遊んだ友達のことがどんどん好きになってい

ます。大好きな遊びと大好きな友達がいっぱい見つかるように支えていきたいと思います。

（中原）

## 友達と一緒に進めるくじ屋さん（星組）

お弁当後にMくんが紙をハサミで小さく切り、それに○、×、◎を書いてくじをつくっていました。できたくじを箱に入れ、仲良しの友達に「くじやる？引いていいよ。」と言うと、他の子どもたちも「やらせて」と集まってきました。×が多いのか、なかなか○や◎が出ません。やっと◎を引き当て「やった◎。」と喜んだSくんが「当たりの商品は？」とMくんに聞くと、「商品はありません。」と答えました。「商品ないんかい。」とSくんが言ったことで、みんなで面白がり「ないんかい。」と言い合い笑っていました。保育者が「商品つくったらいいじゃない。」と投げかけると、周りで聞いていたTくんが「恐竜の絵を描こうか？」と言い、Mくんが「いいね、それじゃあハブとかも描いてよ。当たりも増やそう。」と言って、二人で商品のあるくじ屋の準備を始めました。商品が少しで、降園の時間になりました。二人は降園前の集まりでクラスのみんなに「明日はくじ屋をします。当たったら商品があります。」と伝えました。

翌日、TくんとMくんは話し合っていたようで早く登園しました。すぐにテラスにテーブルを置き、「くじや」という紙で書いた看板を背面のガラスに張り、くじ屋を始めました。Sくんが登園し、「くじやらして。」と言うと、「1回10円です。」とMくん。Sくんは「お金いるん？それじゃあいっぱいつくろう。」と紙を丸くハサミで切ったものに10と書き始めました。保育者は「手伝おうか。」と声をかけると「（紙を）丸く切ってください。」とSくんがすぐに答えました。30枚程度10円ができ、Sくんが「何回もできるからYくんたちにもあげよう。」と言うので、保育者が「それ銀行みたいだね。銀行を開いてみんなに貸してあげたらいいんじゃない。」と伝えました。Sくんは「いいね。そうする。それじゃ看板もいる。」と言って紙に「ぎんこやさん」と書きました。側で自分用にお金をつくらっていたRくんは『う』がいるよ。『ぎんこやさん』だから。」と言い、指で看板に「う」の字を書いて教えていました。くじ屋の横にぎんこやさんができ、くじを引きたいけれどお金がない人がそこでお金をもらいます。お金が少なくなってSくんが保育室につくりに行っている間にぎんこやさんのお金を黙って借りようとした友達がいきました。くじの順番を待っていたIくんがそれを見て「勝手にとったらどろぼうよ。いけんよ。」と止め、「そうだ、僕が警察になる。」と保育室に戻りました。Iくんは紙を巻いたこん棒とアンテナのついたトランシーバー、そして「けいさつ」と書かれた看板をつくって戻ってきました。くじ屋は銀行と警察にサポートされ、多くのお客を呼ぶことができました。

子どもたちが遊びを楽しもうと必要感をもって工夫する中で、たくさんのお話を学びながら、自分らしさを発揮していることが感じられました。

（高田）

